

家庭裁判所調査官インターンシップ

実施結果レポート

日時：令和元年9月3日（火）午前9時10分～午後4時15分

場所：大津家庭裁判所

大津家庭裁判所では、初めてインターンシップを開催し、7人の方が参加しました。今回の実施内容や参加者の感想をご紹介します。

庁舎見学 9:50～10:10



調査室，審判廷，調停室等を見学
各部屋の使用目的や特徴を知りました。

参加者の感想

実際の調停が行われる場などを見学してモチベーションを上げることができた。

細かいところまで見学でき、充実した時間だった。

家事事件業務体験

10:20~12:00

模擬事例を用いて、個人検討やグループ討議をしながら、子どもの調査の体験を行いました。

参加者の方々それぞれが、子どもの気持ち

を想像し、家庭裁判所調査官の調査での工夫に気づきを得ていました。

参加者の感想

実際の業務をロールプレイで体験することができ、具体的な仕事内容がよく分かった。

予想以上に多くの人と関わる機会があり、様々な対応が必要になることを知った。

自分の気持ちを上手に表現できない小さな子どもに対してどう接すればよいかを考えられた。家庭裁判所調査官と子どもと両方の立場を体験できてよかった。



少年事件業務体験 13:00~15:00

模擬事例を使い、個人検討やグループ討議をしながら、調査の事前準備、少年との面接、事例理解を体験しました。





参加者の感想

非行少年を相手にするので厳しく接しているのかと思っていたが、相手と向き合うための対話が重要だということが分かった。

なぜ事件発生に至ったのか仮説を立てて、情報を基に仮説と照らし合わせる過程が興味深く、その重要性を知る機会となった。

事件の背景事情を考えるのが難しかったがやりがいを感じた。

座談会 15:15~15:55

和気あいあいとした雰囲気の中、やりがい・大変さ・待遇・研修制度 etc たくさん質問が出ました。

参加者の感想

職場環境など、資料だけでは分からないことを知ることができてよかった。

様々な質問に丁寧に答えてもらい、とても参考になった。

働きやすい職場であることに驚いた。



インターンシップ全体の感想

裁判所職員ということで堅苦しい印象をもっていたが、対応してくれた職員の方々が常に笑顔で明るく、アットホームな感じで安心した。

当事者の思いや心情を引き出す非常に専門性の高い仕事だと感じた。

家庭裁判所調査官の仕事知らない人は多いと思う。もっと幅広く学生に知ってもらえると、目指したくなる人も増える仕事だと思った。

架空の事例を用いた業務体験だったが、内容がリアルだったので実感を持って取り組めた。

担当者からのメッセージ



家庭裁判所調査官の仕事に高い関心を持っている方々と出会うことができ、嬉しく思いました。

担当者として、企画の準備や運営は大変なこともありましたが、参加者の皆さまが面接ロールプレイやグループ討議に意欲的に取り組んでくださったこともあって、良い雰囲気での運営できたと思います。